

第6回総務、産業、建設常任委員会記録

招 集 年 月 日	令和4年5月23日（月）
招 集 の 場 所	議員控室
開 会	午前9時30分
出 席 者	委員長 山岸 三男 副委員長 佐野 善弘 委員 赤坂 芳則 委員 藤田 洋一 委員 櫻井 功紀 委員 前原 吉宏 議長 鈴木 宏通
欠 席 者	
職務のため出席した者の職氏名	議会事務局主事 佐藤 理子
協 議 事 項	1) 地域おこし協力隊との懇談会について 2) 提言の検証について 3) 所管事務調査について
そ の 他	
閉 会	午前11時59分

2号様式 協議の経過

山岸委員長	皆さん、おはようございます。ただ今から第6回総務、産業、建設常任委員会を開会いたします。昨日と今日、ちょっと天気が不安定な状況のようで、少し肌寒かったり暖かかったりするんですけども、農作業の方々もほとんど終わっているんだろうと思います。私たちの常任委員会の6回目になるんですけども、いろいろと協議事項がございます。今回は、前回お話しされたとおり、3つの協議事項と言いますか、用意してございますのでしっかりと協議していただいて進めてまいりたいと、そんなふうに思いますのでよろしく願いいたします。なお今日、全委員揃っていますので会議は成立しております。それに議長もお見えになっておりますのでよろしく願いします。以上です。 それでは早速、会議事項に入ります。まず、1) 地域おこし協力隊との懇談会についてということで、前段からいろいろとお話をしておりましたが、この協力隊員との懇談会、顔合わせと言いますかね。4人が今回美里町、何年か前からいろいろ要望していたのが、今年の4月から4人の方々が新しく美里町の協力隊員として就任されたと言いますか、入っておりますのでその方と色々な話をですね、美里町の色々な取組、進めていただきたいと思いますので、そのことについてどういう形で懇談会、あるいは日にちの設定とかね。その辺を皆さんにいろいろ協議していただきたい、そんなふうに思いますので、皆さんからいろいろ考えがありましたらお話をしていただきたいと思います。 その前に一旦、休憩をしてそれぞれ皆さんから意見を聞いて、それからまとめていきたいと思いますので、休憩をいたします。
	休憩 午前 9時32分 再開 午前10時 5分
山岸委員長	再開します。 本日の1)の地域おこし協力隊との懇談会について、皆さんから休憩を挟んで数多くの意見をいただきました。その中では時期尚早じゃないかという意見と一定の時間をおいて、これから色々な町の行事、事業があるからその中で協力隊の皆さんと顔合わせこともあるだろうし、話をする機会もあるんだろうから、その辺の時機を見て、一応10月頃をめどに実施するという方向で進めたいということで決めたいと思いますがよろしいでしょうか。 (「はい」の声あり) 皆さんから賛同いただきましたので、一応10月頃をめどにということで協力隊との懇談会という表現がいいのか、あるいは何と言いますかね、名刺交換会というのもあるけれども、励ます会とか何かね。 (「そういう機会を設けるということでとどめていたほうがいいんでねえすか」の声あり) 協力隊との何ていうの、面談の機会をつくると、改めてね。常任委員会としての面談の機会をつくるという、そういう形でよろしいですか。

	(「はい」の声あり) じゃ、一応10月頃をめどということで決まりました。 次に移ります。2) 前段で出ました提言の検証。私たち何年か前に常任委員会からまた町のほうにいろんな提言を出しております。それに対して町からの回答みたいのが出ている。この間、資料を皆さんにお渡ししてあります。その資料を皆さんも読んでいるかと思いますが、ちょっと休憩して一回目を通していただきますね。いいですか。休憩します。
	休憩 午前10時 8分 再開 午前10時29分
山岸委員長	再開をいたします。 研修課題に関する執行部への提言に対する検討結果についての、これは平成31年1月11日、総務、産業、建設常任委員会報告書。それに対して町からの検討結果ということで届いています。これをただ今から検証するというので、まず(1)から読み上げます。 町の自然や環境、施策、子育て支援等総合的なPR資料と情報発信をさらに行う必要がある。①町内外の方に美里町の地域情報の周知を図りながら、定住化等のPRや方策をより進めていく、ということで常任委員会では提言しています。町からの結果としては、現在、町が参加している首都圏などでの移住、定住促進イベントにおいては、各分野の所管課が作成しているパンフレット等を活用しながら町のPRを行っている。今後、町のPRパンフレット等の更新が行われる際には、これまで活用してきた中で感じた修正点、イベント参加者からいただいた意見等を反映し、より良いものとしながら引き続き活用していく、ということでもあります。 あと、②人材交流の起点として人と人とのつながりによる。 (「それ一回にみなやっしまわないでしゃ。①だら①」の声あり) じゃ①、今町は、より良いものとしながら引き続き活用していくという回答と言いますか結果を出してございます。これについて皆さんから、これを。 赤坂委員。
赤坂委員	赤坂です。今後のところから始まって、これまで活用した、感じた修正点、イベントの参加者からいただいた意見等を反映し、より良いものとしながら引き続き活用。だからその修正点と意見等、それがどういうものが出されて、それについて改善をして進めているのかどうか。ここのところはちょっとクエスチョンだなと思っているんですよ。修正点、直しているんだか。意見等、いただいているんだか、反映しているんだか。
山岸委員長	今、赤坂委員がおっしゃったように活用した中で感じた修正点。あと、参加者からいただいた意見を反映すると。より良いものに引き続き活用していくと。この修正点と意見というのはこれは、町にもう一回聞くしかない。 (「そうそう」「検証だもの」「どういうものが出たのですかと」の声あり) わかりました。(1)の①の今言われました修正点と意見というのを町の

	ほうにどのように修正されて、どのように意見などを取り入れて反映されたのかということをお尋ねするという形でよろしいですか。 (「はい」「いいですよ」も声あり) 前原委員。
前原委員	その感じたものを反映して、作ったPR用のパンフレット、それが更新されているのかどうか。
山岸委員長	わかりました。今の内容で町のほうにもう一度質問させていただくということで、よろしいですね。 (「はい」の声あり) 次、②にいきます。人材交流の起点として人と人とのつながりによる情報の収集・発信などを、定住促進に活かしていく、ということの提言に対して、町への移住、定住に繋がる各種情報の収集及び発信については、定住化促進施策を進める上で重要なものと認識しており、これまでも各分野において可能な範囲で行っている。引き続き、情報の収集及び発信に努める、と書いてございます。このことについて、皆さんから意見をいただきたいと思います。 櫻井委員。
櫻井委員	これはこのままで流していいんじゃないですか。
山岸委員長	今、櫻井委員から流していいというご意見なんですけれども。 赤坂委員。
赤坂委員	そんなに突っ込むものではないかもしれないけども、やっぱりここは定住促進のために、いろいろアピールしてくださいよということの、こちらからの意見をまとめた提言なのだけでも、それについてどこの市町村もやっぱりいろんな努力をしてPR活動しているんだと思うんだけど、その辺がちょっと、例えば、ある町では東北本線の電車にPRのチラシとかポスターぶら下げたり、そういうところも見受けられるし、その辺で具体的に何かやったのかどうか、その辺をちょっと確認したいなと思っているのね。
山岸委員長	今、赤坂委員からどういう情報収集と発信、どういう情報を収集して、どういう発信されたのか、その辺も聞いてもいいんじゃないかということなんですけれども。よろしいですか。 (「はい」の声あり) じゃ、そのように進めたいと思います。ほかにございませんか。よろしいですか。 (「はい」の声あり) それでは次、(2)に移ります。移住・交流サポートセンター等の定住化に向けた組織の設置を今後検討する必要がある、の中で①として、定住・定着を推進するための組織を設置し、空き家バンクの運営、田舎暮らし体験住宅の運営、移住者交流会の開催や移住希望者の町内案内をする事業等を展開するべきである、の提案に対して、移住希望者をサポートする事業については、まちづくり推進課が窓口になって行っている。これまでの移

	住希望者からの問い合わせやイベント等では、現体制で対応可能であったが、今後対応件数の増大または事業規模の拡大によっては、新たな組織体制が必要になることから引き続き検討していくと、一応前向きな回答されているんですけども、このことについて皆さんからご意見いただきます。 櫻井委員。
櫻井委員	新たな組織体制って何さや。
山岸委員長	休憩します。
	休憩 午前10時36分 再開 午前10時41分
山岸委員長	再開します。 今（2）の常任委員会から①の提言に対して、町からは今までは現体制で対応は可能であったが、今後対応件数の増大または事業規模の拡大によっては、新たな組織体制が必要になることから引き続き検討していく、という回答をいただいています。これについては、あれから回答をもらってから3年経過しているの、今現在は結構、移住、定住も若干増えていますよね。その後の組織体制がどうなっているのか、引き続き検討していくっていうんですけども。これも質問事項に入れていただきたいと思います。いいですね。 （「4年ってんだよ、4年」「回答は令和2年ですよ」「令和2年か」の声あり） 令和2年1月21日の回答ですからね。じゃ、（2）の①については、これも今組織はどうなっているのかということで質問することにいたします。 続きまして、②の「移住サポート事業助成金」を設け、移住を目的として町外から住居、仕事を探しに来る人に交通費、宿泊費の一部を助成し、意欲ある移住を考える人たちへの細かなサポートをしていく、に対して、移住希望者に対する新たな支援策については、今後の事業展開及びその効果を検討したうえで事業拡大及び組織の拡充につなげる必要があり、引き続き検討していく、という回答でございます。このことについて皆さんからご意見をいただきます。どうですか。 休憩いたします。
	休憩 午前10時43分 再開 午前10時45分
山岸委員長	再開いたします。 このことについても町のほうに改めてこれを、これ今本町にはまだ、この内容の事業はないんですよ。交通費とか宿泊体験だとか。そういう体制がもちろんできていない。これももう一回聞いてみる。よろしいですね。 （「はい」「いいよ」の声あり） 次、（3）に移ります。地域おこし協力隊の活動効果が大きい。確たる目的を持ち、その事業活動を推進する計画を十分に検討し取り組む必要がある。①地域おこし協力隊は一定期間、地域に居住して地域ブランドや地場

	産品の開発、販売、PR等の地域おこしの支援や農林水産業への従事、住民の生活支援など地域支援活動を行いながら地域への定住、定着を図る取組であり、その事業効果は大きい、という提言に対して町は、地域おこし協力隊は、隊員の地域支援活動を通じて、町や地域の課題を解決するための地域おこし事業が展開できるとともに、新たな住民の定住、定着にもつながる有効な手段の一つであると考えており、現在その導入について検討している、というのが令和2年の1月21日。これはいいですね。 休憩します。
	休憩 午前10時47分 再開 午前10時47分
山岸委員長	再開します。 いいですね、もう進んでいますからね。これは質問はなしということですね。 ②です。事業活用に当たり、その目的を明確にして事業計画を立て、受け入れる地域住民、協力隊員相互のマッチングを図り、日常活動、定住化に結び付けていくコーディネートが必要である、に対して、地域おこし協力隊の活動に当たっては、導入目的を明確にするとともに、隊員のミッション（使命・任務）の設定が非常に重要である。また、隊員の受け入れや支援の体制については担当課だけでなく各課にわたる横断的な連携、そして地域住民、関係団体との十分な調整が不可欠であると考えていると。これもどうですか。 （「いいんでね」「いいよ」の声あり） 始まっているからね。これはこのままでいいですね。 次、(4)です。本町の交流人口や応援隊的な人たちを増やす工夫が必要である。①として、情報交換や町のPR活動に協力を受け、「つなげる」、「力を出し合う」、「故郷に貢献する」を基本に、イベント等を活用しながら交流人口の増加と町の応援者としての協力体制を築いていくことが必要である、と提言しています。町は、今後少子高齢化が進展し、人口減少が懸念されている中、まちづくりにおいては、交流人口・関係人口の創出・拡大が課題となっている。その対策として交流の場となる新たなイベントや観光資源、特産物など町の魅力を創出し、SNSを使った情報の発信等、積極的に進めていくことが必要であると考えている、という回答であります。このことについて、皆さんからご意見いただきます。どうですか。ありませんか。 赤坂委員。
赤坂委員	いろんな交流事業、あとは観光資源、特産物とやっていることはやっていると思うんですよ。ただやっぱり、一つ弱いのは特に物産関係ではほかの市町村から比べると、もうちょっと魅力いまいちな感じがするのね。だから、例えばふるさと納税のやつなんかもあれを見ても何が売れてんのかというの少し参考になると思うんだけど、あまり目立ったものがないので、だからアピールするところが弱いんですよ。だから、魅力を創出して

	いくためにはいろんなそういう新しい商品だとかの美里町ならではのやつを作って発信していかねばねっていうことだね。ただ今は、現時点では弱いと思う。だから、なかなか美里町の物産展やっても売れ筋がいまいちとこう。いろいろな物産展にも参加させてもらったから、そいつ感じてるんだけどもね。
山岸委員長	確かにそのとおりで、私もそれ思っているんですけども、この町の回答としては情報の発信等、積極的に進めていくことが必要であると考えている。考えているんだけども、具体的なことは何かとお尋ねしますか、どうしますか。 前原委員。
前原委員	今、委員長言っていたように現在どういう情報の発信しているのか。それを確認させていただいて、赤坂委員が言うようにこういう部分に足りない部分があるんじゃないかと。そういう回答がもしあればね。そういう質疑等があってもいいんじゃないかと私は思います。質問すべきだと思います。
山岸委員長	今、前原委員は現在どういう情報発信しているのかということを町にもう1回お尋ねしてもいいんじゃないかということなんですけども。よろしいですか。 (「はい」「具体的にね」の声あり) そういうことで、これも現在どういう情報発信しているのかを再質問するようにします。 (5)に移ります。移住者だけではなく、住民の流出を少なくする応援体制の構築を図る、ということで、まず①住宅補助、子育て支援、企業などの連携等をより進める、に対して、各分野において、さらなる連携が必要であると認識している、という非常に短い回答。 (「こいつはしてっぺっちゃや」) これは進んでるんですよ。 (「子育て支援もしてっぺす、補助もしてっぺす」の声あり) 認識しているって、さらなる検討するとかはないんだね。 赤坂委員
赤坂委員	回答、明瞭完結みたいだけでも、この中に提言している部分は企業などの連携等ということも含まれているのね。だから、住宅補助と子育て支援はやっているようですが、企業などの連携ということがどういうふうに進められていんだかさ。その辺はやっぱり確認する必要はあるんでないかな。
山岸委員長	今、赤坂委員からわが町は住宅補助、子育て支援、当然事業として推進しています。じゃ、企業などの連携等をより進めるとしておりますが、さらなる連携が必要であるとまで認識も町は持っているようなんですけども、その企業とはどういう連携をされてるのかということを聞くということでよろしいですか。 佐野副委員長。
佐野副委員長	それとやはり、その前の住宅補助とか子育て支援とかっていうのは一番

	移住には大切な内容だと思うんですけど、その辺の企業の連携も含めて現状がどのようになっているのかというのを確認したほうがいいんじゃないかなと思うんですけどね。
山岸委員長	住宅補助と子育て支援、町の支援事業と企業との連携がどう。
佐野副委員長	だから。内容が現状どういうふうになってるか、確認したほうがいいんじゃないかと。
赤坂委員	定住を進めるための、要は一般にSNSで発信するのも一つだけれども、町内にあるいろんな企業があるのでね、そことうまく連携ができていないとね。だから、町内に他町村とかから結構働きに来ている人いっぱいいると思うんですよ。そういう人たちにもいろいろ、ここに美里町に住みませんかということを企業側でアピールする体制になっているんだかどうか、いろんな企業いっぱいあるけれどもね。その辺のやっぱり確認する必要があるかと思います。 櫻井委員。
櫻井委員	移住者を招き入れるのではなくて、ここの住民の流出を少なくする応援体制、これを主に企業とどのような連携しているかということ聞かないとだめだと思うよ。移住者、来い来いじゃないよ。これ流出っていう項目で前の総務、産業、建設常任委員会では提言しているわけだ。
山岸委員長	移住者を増やすだけでなく、出ていく人を減らすっていうことも必要。これも今連携、企業との連携などはどのような内容ですかと。よろしいですね。 （「はい」の声あり） そのように質問します。 じゃ、②です。担当課だけではなく、各課にわたる横断的な連携、施策の構築等の取組を進める、ということを提言したのに対して、必要に応じて取り組む、というさらに短い回答で。これについてはいかがですか。 これはいいですか、このままで。 （「いいんじゃないですか、このままで」の声あり） 一応、前向きな回答しているんで、必要に応じて取り組むとは書いてあったから。
藤田委員	今何も横断的に、過疎だけでなく各課長、連携というの今重要視されてっから。福祉の部分もね、健康関係も。広域高齢もそうだけでも、全部一連で各課担当ですから、いいんでねっすか、これで。
櫻井委員	いいと思います。
山岸委員長	赤坂委員
赤坂委員	ただ、ここに回答が必要に応じて取り組むとなっているわけさね。だから、必要でないという判断にすると取り組まないということになるわけさ。その辺はやっぱり確認する必要があると思うよ。必要ないからやってないと言われればそれで終わってしまうし。でも我々いろんなことをやっぱり必要だと思うからいろんな提言しているわけなんで。やっぱり、その辺も必要に応じてということはどうなってるんだって聞かないと。

山岸委員長	今確かに、回答は必要に応じて取り組むと、必要なければ取り組まないみたいな逆説に受け止めればそう受け止めかねないと思うんですね。同時に今各課内で毎回ですけれども、各課連携していろんなことの対策に取り組むんだということを毎回決算、予算審査の中でも課長さん達は答弁されます。とにかく連携をして、各課連携をして取り組む。私たち常任委員会でも各課連携を密にしてしっかり取り組んでくださいと提言もしています。そのことについて、これただ必要に応じて取り組むっていう、あまりにも素っ気ない感じもしますし。具体的にどういう取組をされているもの、横断的な施策の構築の取組を進めるというのは、当然予算作るときは企画財政課が各課からいろんなヒアリングをして、ある意味予算の取り合いみたいな、そんな構図が全国あると思うんですけど。では、このことについての私今本当に関心を持っているのが、連携ということが非常に大切だと思っているんですけど。この部分についてこのままでなくて、質問事項としてね、具体的などという、横断的な連携というのはどういう内容で取り組んでいるんですかということを知りたいということによろしいですか。 （「はい」「定住に向けてね」の声あり） 私たちは移住、定住の関係なんですけども。これを移住、定住だとまちづくり推進課とかあと建設課とかいろいろね。企画財政課も防災管財課も絡みますからね。その辺も一応もう一回お尋ねをするということですね。 はい。じゃ、③。若者をはじめとする住民が住みやすく活躍するまちをつくるとする「次世代の定住促進」を掲げ、官民一体となり、まちづくり、ひとづくり、地域づくりを進めていく必要がある、と提言しています。各分野において、定住促進につながるそれぞれの施策を展開しており引き続き推進していく、という回答でございます。このことについて皆さんからご意見どうぞ。 回答のとおりだと思うんです。定住促進につながるそれぞれの施策を展開しており引き続き推進していく。 佐野副委員長。
佐野副委員長	若者への具体的な施策というのが、次世代の定住ということでこの間は説明を受けたんですけども、その辺の現状の進め方と今後の考え方なりですね。いろいろとその辺、若者向けの住宅とか何かこうやるということで今年の施政方針出ていましたよね。その辺の考え方なりを聞いて、どういうふうになるのかといったところを、そういうことだと思うんですけどね。聞いてみていいのかなと。
山岸委員長	令和4年度の町長の施政方針の中でも若者が定住できるということでの新たな施策ということ、施政方針で謳っているんですね。これ私一般質問で新たに聞いていますけども。これ今、佐野副委員長が言ったようにもう少し具体的な内容をということで聞きますか。 （「これからだと思うよ」の声あり） これからになると思うんですけどね。 前原委員。

前原委員	そのとおりだと思いますので、現状の部分をもう一度確認する意味で質問したらどうでしょうか。それとですね、今施政方針の話も出しましたが、第2次の美里町総合計画、総合戦略の中にも定住化促進するための対策というのを謳っているんですね。それらについて、担当課として今の回答の中に出てくると思いますので、それらについても一緒にですね、考えてもらって。どうなっているか。
山岸委員長	今、前原委員おっしゃったように現状と施政方針にも謳っていますから、これの取組と現状の状況はどうなっていますかということでの質問、よろしいですか。 （「はい」の声あり） いいですね。一応、検証として再質問するということでの内容について皆さんからいろいろご意見頂戴しております。 前原委員、どうぞ。
前原委員	その他として、検証の中のほかの部分で先ほど佐野副委員長に言っていたように、東京圏からの宮城県に移住する方とそれに対する回答が紙いただいたと思うんですけども、これ1枚だったんですね。それで町の考え方としてはどうなのかと。例えば我々が視察に行った時にほかの県はどこでやってるよとか、そういう部分も参考になると思うので、町としてはこの県の施策の方向に対してどう思っているんだと、そういう部分もどうなのかと。先ほど、佐野副委員長が言っていた時に思いました。これは私の意見です。
山岸委員長	わかりました。せっかく質問するから。町でもそういう東京圏、あるいは関西圏からの移住に対するという提言していますから、施策として考えていますから、それも一緒に質問すると。
佐野副委員長	このパンフレット、宮城県のパンフレットなんですけども、この間説明していただいた中で令和元年からの内容の移住支援事業補助金という、大体これと同じ内容なんですけども。だから、これを県とタイアップして町で進めているのかなと俺は思ってたんですけども。
赤坂委員	こいつだけだと、これ国、県の補助だけでしょ。だから町がプラスアルファ、町が何か考えてたのかというのは。
山岸委員長	町もあるよね。
前原委員	そこを聞いたらどうかなと。
山岸委員長	タイアップできるかどうか。
前原委員	結局、何年か経過しているわけですよ。先ほど実数として何人だっちゃんねという話出たんで。それに対して本町としては、例えばプラスの考えでどうなのや。これ一本じゃなくてほかに重ねるとか。
山岸委員長	県の事業と町の事業と。
前原委員	そういう質問もどうかなと思いましたので。
山岸委員長	いいと思うんです。 櫻井委員。

櫻井委員	今前原委員が言ったのはね、国、県の補助のほかに町単独でプラスアルファで出しているのか、出していないのかを聞きたいんですよ。そういうこと。
山岸委員長	それも一緒に質問に入れるということで。 （「一緒じゃなくてさ」「その他として」の声あり） とにかく、今前原委員言ったことも一緒に質問、その他にするのか、本文さ入れっか。その他でいいですか。 （「いいよ」「その補助金項目とかあっぺっちゃや」の声あり） 今（５）のほうの、こいつに入らないか。 （「だから、その他」の声あり） その他にして、今県の事業と町の事業、プラスアルファみたいなことの質問をその他で入れるということでよろしいですね。 （「うん」の声あり） わかりました。一応、検証については全部今、進めましたのでこれでだいぶ濃密な会議したので、ここで一旦休憩をします。
	休憩 午前１１時 ８分 再開 午前１１時１７分
山岸委員長	それでは再開いたします。 次にですね、（３）の所管事務調査についてということで。 （「ちょっと待って」の声あり） はい、赤坂委員。
赤坂委員	今の提言、検証したやつをどういうふうにする考えか。
山岸委員長	今、提言の検証については皆さんから意見出してもらったやつをまとめて文章にしまして、それをどういう形がいいですかね。皆さんに一回見てもらって、これで良しとして執行部に出すか。流れとしてはそのようにですが、まだ文章できていないので、これから今改めてもう一回質問しますという皆さんからいただいた内容を文章にまとめたやつで、これは議長を通じて。 休憩します。
	休憩 午前１１時１８分 再開 午前１１時１９分
山岸委員長	再開いたします。 先ほどの赤坂委員からの質問ですけれども、先ほど提言の検証についての再質問内容については文章にまとめて、それを一回皆さんに確認していただいて、それからあと委員長、副委員長で担当課長に持っていくと、そういう形で進めさせていただきます。よろしいですか。 （「はい」の声あり） 前原委員。
前原委員	前原です。今日皆さんからいただいた検証については、委員長、副委員長がまとめてそれを書面として担当課へ渡していただいて、担当課から回答を文書でいただくわけですから、それをもって次回の会議をするとか、

	委員会に繋げていくと。その中で先ほど私言いましたけども、今回の定住化促進についての足りない部分は、ここをもっと検証しましょうと、そういう形で進めたらどうかと、私先ほど言ったんですね。それに対して、あとは委員長が皆さんから検討していただいてどういう形がよろしいでしょうかと、進めてもらいたいと思います。
山岸委員長	今、前原委員から言われたとおり、そのように進めさせていただきたいと思います。それでよろしいですね。 （「はい」の声あり） わかりました。次に移ります。3)の所管事務調査についてということで、一応予定として今年は2泊3日の日程になっています。それで先ほど事務局と一応確認したんですけども、日程の関係でですね、まず予定としては7月上旬から8月の間でということが一つです。それから今後の予定としてあるのが、まず議員研修。町村議長会の議員研修というのが7月14日、15日、これが仙台の自治会館でございます。これは議員がおそらく二手に分かれるかと思います。それからさらに議員セミナーというのが大和町で8月22日が予定されています。この予定の合間を縫っての7月上旬から8月ということでの、日程の関係が一つです。 もう一つは私たちの今、定住、移住ということでの研究テーマを掲げていますので、その先進地ということでの行先ですね。実は佐野副委員長にお願いしておりまして、いろいろどういうところがあるのか調べていただきましたので、その資料を皆さんのお手元に渡っていますか。その前にも櫻井委員とか藤田委員からも新聞の記事とかいただいていますので、それはこれからどこが先進地の視察としていいのか、その辺を検討していただきたいとそんなふうに思いますので。一旦休憩をいたします。
	休憩 午前11時22分 再開 午前11時47分
山岸委員長	再開します。 先進地視察ということで、資料を何点か皆さんの手元に置いてございます。今休憩中にいろいろお話しをいただきましたけども、今日はこの場でどこに決めるということはできませんので、先ほどの提言の検証について、町のほうに再質問出しますので、ただその回答がいつ出るのかまだ今のところわかりませんが、次回の会議の段階で私と副委員長とでさらにちょっと先進地については検討させていただいて、1か所か2か所くらいに絞って、皆さんにまた協議していただくということで進めたいと思いますが、それでよろしいですかね。 （「はい」の声あり） わかりました。一応確認しておきます。今、赤坂委員からもらいました田舎暮らしのこの資料、さらには東松島あるいは山形あるいは流山市、いろいろ資料ございます。この資料の中から佐野副委員長と私で検討させていただいて、それで次回の会議までに1か所か2か所提案させていただきますので、それでさらに皆さんから協議していただきたいと思います。

	(「委員長」の声あり) はい。
櫻井委員	東松島は入っているよね。
山岸委員長	今言いました。
櫻井委員	それから栗原は。
山岸委員長	栗原も。
櫻井委員	入れておいて。
山岸委員長	一応、検討させていただきます。東松島市、栗原市、流山市、あとは赤坂委員が提案したのは結構あるんですね。北海道、長野県もございます。島根もあります、大分県もございます。 (「そこに限らず検討していただいて」の声あり) 資料から選ばないと、さらに間口広がったら。一応検討させていただきますのでね。 それで、次回の会議はいつ頃に予定しますか。6月会議の前に開いて先進地決めないと議員派遣のあれができませんのでね。あと、先進地の行先にも確認取らなければならないので。今日は5月23日でございます。6月8日が一般質問締切、9日が議運、それから6月会議が14日になっています。行先と日程について6月会議前まで決めなくとも大丈夫ですよ。あくまで6月会議は議員派遣のそれだけだからね。 休憩いたします。
	休憩 午前11時51分 再開 午前11時58分
山岸委員長	再開します。 次の常任委員会を6月10日、金曜日、9時半に開会します。今それぞれ日程、予定いろいろお話しいただきましたので被ったりしないようにしっかり進めたいと思っております。 その他、皆さんからありませんか。 (「ありません」の声あり) なければ、第6回の総務、産業、建設常任委員会を終わります。閉会の挨拶を佐野副委員長お願いします。
佐野副委員長	第6回の総務、産業、建設常任委員会、ただ今をもちまして閉会させていただきます。次回は6月10日でございます。それと14日から6月会議がありますので、それまでに質問内容とか所管事務調査の内容をまとめますので皆さんのご協力をよろしくお願いします。大変ご苦勞様でした。
	閉会

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年5月23日

総務、産業、建設常任委員会

委員長